

# 令和2年度 調布市立若葉小学校 学校評価報告書（学校長 渡邊 桂子）

## 学校の教育目標

「かしこく やさしく たくましく」 ・しっかり考え、進んで学ぶ子 ・思いやりのある子 ・明るくたくましい子

## 目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

### 【目指す学校像】

「子どものための学校」を基本に据え、子どもたちが学び育ち合う学校、教職員も教育の専門家として学び育ち合う学校、保護者・地域も教育活動に協力・参画して学び育ち合う学校づくりを推進し、協働で「花と笑顔のあふれる学校」を目指す。

### 【目指す子ども像】

「進んで学び、自ら表現できる子ども（表現力）」 「優しい心をもち、自分も他人も大切にできる子ども（協働する力）」  
「進んで挨拶するとともに、心身を鍛える子ども（健康増進力）」

### 【目指す教師像】

使命感（Sense of Mission）・行動力（Action）・情熱（Passion）をもち、子ども第一主義を貫く教師

## 調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価
	① 道徳科において「自分の思いや考えを表現し互いに認め合う子どもの育成」を目指した授業改善を行った。また、年間を通して挨拶に関わる活動を行った。	A	① 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～思考ツールを活用して～」を主題として年8回研究授業を実施し、成果と課題を検証した。	A	① 講師を招聘してオリンピック・パラリンピック教育を推進したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため計画どおりには実施できなかった。	B
	② 特別支援教育コーディネーター・特別支援教室専門員・スクールカウンセラー・スクールサポーターを活用した支援を行い自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図った。	A	② オンライン社会科見学を実施したり、ICT教育機器を効果的に活用したりして、学習活動の充実を図った。	A	② 感染予防に配慮しながら体育科の授業改善を行い、なわとびなど運動の日常化を図った。しかしながら、仮設校舎建設等のため校庭使用に制限がかかり十分ではない。	B
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
① 保護者アンケートにおいて、心の教育に関する肯定的評価93.2%	A	① 保護者アンケートにおいて、学習内容の定着に関する肯定的評価90.1%	A	① アスリートとの関わりは「子どもに感銘を与え運動意欲を高める」との肯定的評価を得た。	B	
② 定期的に校内委員会や教育相談会を開催した。	A	② 保護者アンケートのICT教育機器の効果的活用に関する肯定的評価は65.3%。「分からない」が20.6%。	B	③ 保護者アンケートの健康・体力増進に関する肯定的評価86.9%	B	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶運動で、元気に挨拶ができることと「ありがとう」という言葉が言えるようにすることが大切。また、友達や親先生とのコミュニケーションを大いにとっていくことも大切。</li> <li>失敗しても、なぜ失敗したのかを自分で考える力を育成することが大切。</li> <li>子ども同士が褒め合う場面が見られた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>表現力の育成の中で、きちんとスピーチができるようになること、自分の力で考え、課題を見付け、修正していくことが必要。</li> <li>コロナ禍で、ICT教育機器の使用が多くなり試行錯誤が多かったのでは、と推察する。今後、効果的に活用し、学習活動が充実することを期待する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>できないことや制限が多い中、やれることをよりよく、また、こういう状況だからできることを、先生方はよく話し合い、実践されていた。</li> </ul>	

## 学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 安全・安心な教育環境の整備	5 読書活動の充実	6 保護者・地域との連携			
自己評価	(1) 具体的な取組	評価	(1) 具体的な取組	評価		
	① 年3回、児童アンケートを実施し、いじめの未然防止・早期発見に努めた。	A	① 10月の「読書月間」や週1回の「おはよう読書」を実施し、豊かな感性を育んだ。	A	① 地域学校協働本部の活動を充実させ、安全見守りや自然体験学習などを実施した。(地域行事はなし)	B
	② 定期的な安全点検・安全指導・避難訓練の実施、食物アレルギー対応の確実な実施、新型コロナウイルス感染拡大防止の適切な対応に努めた。	A	② カリキュラム・マネジメントを活用し、担任と図書館司書との連携により国語科と読書活動を関連させ言語活動の充実を図った。	A	② コロナ禍のため、校種間連携は推進が困難だった。学校だよりや学校ホームページで情報を適時に発信した。	B
	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価	(2) 成果(数値目標に対して)	評価
① いじめの解消率100%	A	① 保護者アンケートの読書活動に関する肯定的評価91.7%	A	① 保護者アンケートの保護者・地域との連携に関する肯定的評価84.3%	B	
② 保護者アンケートの安全・安心に関する肯定的評価90%	A	② 学級担任と図書館司書との連携により図書館利用率の増加・子どもの読書量の増加が図られた。	A	② 保護者アンケートの学校からの発信に関する肯定的評価96.1%	B	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時、都道の歩道橋から校門までの間に子どもたちが集中するために車道に出て歩く児童を見かけた。地域で見守る姿勢を大切にしたい。</li> <li>子どもたちの笑顔は何より一番。心身ともに健やかで安心・安全、いじめ等がないことを望んでいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの読書量が増えるのはコロナ禍だからこそそのよさもある。</li> <li>読解力を高めるのは重要。学校図書館の利用が増えるのはよいことだ。</li> <li>今年度は保護者読み聞かせは実施しなかったが、コロナの感染状況をみて継続できるとよい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、第3学年が地域に発信したいということで、地域学校協働本部の広報誌「わかば」を活用した。この広報誌が、学校・地域間の双方向の連携に使えるツールとなり得ることに新しい可能性を見出すことができた。</li> </ul>	

## 人材育成・組織運営

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>職務遂行を通し、職層に応じた教員の育成を推進することができた。また、若手教員のOJTを推進し、指導力向上を図った。</li> <li>年2回の振り返りを通し、効率的な職務遂行の意識化を図った。</li> </ul>
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で、今年度は保護者・地域との連携は難しかったが、今後、保護者・地域との協働での教育活動を目指していく。</li> </ul>

## 中期的な経営目標の達成状況

1 ～ 6 の目標について、ほとんどが肯定的評価84.3%以上だったので、概ね達成できたといえる。しかしながら、ICT教育機器の効果的な活用について、保護者アンケートでは「分からない」が20.6%であった。オンライン社会科見学やzoom、iPadの活用など、学校の取組としては進んでいるものの発信が少なかったと考えられる。今後は教育活動の様子を積極的に発信していく。

## 次年度の重点課題

・自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実 ・「主体的・対話的で深い学び」の具現化及びICT活用の推進 ・体力向上